

○議長 小田 武人君

5 番、刀根議員の一般質問を許します。刀根議員。

○議員 5 番 刀根 正幸君

それでは、一般質問通告書に基づきまして、5 番、刀根正幸でございます。午前中に松岡議員の一般質問された地域の活性化というものとかかなりかぶってまいります。つきましてはですね、一応その点と地域コミュニティというところの部分で、若干拡大したところの部分でですね、お話をさせていただきます。

件名 1. 地域コミュニティの推進についてということで、要旨といたしまして、前回に引き続きまして、総合振興計画後期基本計画の第 1 章に「住民とともに進めるまちづくり」から、現在の事務の進捗状況と今後の方向性についてお尋ねいたします。

まず第一点でございますが、町長の御説明というんですかね、施政方針の中でも、最初に地域コミュニティの推進につきまして、考え方が述べられました。これは非常に重要なことございまして、私も元気なまちづくりというところのことで、やはりこの議員に立候補させていただきました、そして現在までやっているところでございます。つきましては、地域コミュニティの推進のかなめとなる自治区担当職員制度において、どのようなまちづくりを目指しているのか。現在までの成果と自治区加入率の変化について、まずお尋ねいたします。

○議長 小田 武人君

執行部の答弁を求めます。地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

自治区担当職員制度は、芦屋町住民参画まちづくり条例の目的である、町民と行政が連携して、豊かで暮らしやすい協働のまちづくりの実現を目指し、全ての職員が地域の活動に参加し、町民による自主的な地域づくりを支援するために、平成 26 年 8 月からスタートしております。

現在までの成果でございますが、平成 26 年度はステップ 1 の 14 の行事に延べ参加者数 77 名、平成 27 年度は 31 の行事に延べ 164 名、平成 28 年度は参加者数の多い地域一斉清掃、それと町民体育祭が雨のため中止となりましたけれども、ステップ 2 の取り組みが 8 自治区で始まっておりますので、現在まで 38 の行事、延べ 125 名の参加となっております。

成果でございますけれども、参加した職員の、それぞれ感想を聞いておりますけど、よかったこと、悪かったこと、自由意見、さまざまな意見が寄せられており、地域の方の顔、名前を覚えてもらって、コミュニケーションを図ることができた。地域の課題等を再認識した。毎年参加することで、より多くの方と交流でき、地域の方の笑顔が嬉しかったなどの意見も多く、区長さんからもおおむね良好な感想をいただいております。しかし、自治区加入率は、平成 24 年から 27 年までは 62.1% から 61.7% とほぼ横ばいを維持してございましたけれども、平成

平成 29 年第 1 回定例会（刀根正幸議員一般質問）

28 年度には 59.1%と 60%を切っております。今後のステップ 2 で自治区活動の実態把握及びステップ 3 での将来的な地域のあり方の検討、計画の策定において、今後も自治区の方と一緒に取組まなければならないというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

刀根議員。

○議員 5 番 刀根 正幸君

ただいま、現在までの進捗状況等を報告していただきましたけれども、やはり一生懸命頑張っている、なかなか厳しい状態があります。その原因は一体何かなというところで、いわゆる地域コミュニティとは一体何なのかなというのを、実はネットで調べました。そうすると、これはですね、かなり幅が広いですよということで冒頭に申し上げましたけど、やはり、消費、生活、労働、それから教育、衛生、医療、スポーツ、云々、あらゆる活動する場所という、その人の集まりがコミュニティだということでございます。特に、今回町長がおっしゃっている地域のコミュニティの推進という格好にあっても、どうしてもその中で、やはり自治区というものが中心になってくるんだと思いますけども。やはり、その自治区の中には、その自治区の活動を支えるいろいろな団体、例えば代表的なものとしたしましては、老人会とか、また婦人会とか、そういったものが含まれてくるわけです。つきましてはですね、まずはこのところの部分で、一番住民の方々が興味のあるところと言ったら大変失礼、他の課に失礼なんですけど、まずは健康問題。元気に力一杯頑張れるよというところの分をですね、出していただきまして、それからそういったコミュニティの内容の高いところの部分でですね、一つ一つ触れていく中で、それを検証していければなというふうに思いますので、それぞれの課のところですね、御報告をお願いしたいんですが。まずは健康分野につきましてお願いします。

○議長 小田 武人君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 武谷久美子君

芦屋町の特定健診の受診率は、平成 26 年度は 31.7%、平成 27 年度は 31.2%となっております。国の示す目標値の 60%、また芦屋町の実施計画による目標値 33%に比べ、下回っている状況です。健康・こども課では健康の大切さを感じて、健康づくりを実践していただけるようにさまざまな方策を講じてきましたが、受診率の向上になかなかつながりません。やはり住民の皆様健康への意識を高めていただくように働きかけていくことが重要であるとの認識のもと、区長会の御協力を得まして、各地区に保健師が出向き、特定健診、がん検診の必要性など実施への理解を深める啓発活動を今年度は町内 30 自治区のうち、24 自治区で実施することが

平成 29 年第 1 回定例会（刀根正幸議員一般質問）

できました。健康には生活習慣のみならず、地域のきずなやつながりも影響を及ぼすと言われており、健康づくりは住民一人一人の主体的な取り組みに加え、健康づくりをしやすい地域や人とのつながりの醸成が大切であり、地域コミュニティと協働での特定健診、がん検診の受診率向上を推進していきたいと考えております。

以上です。

○議長 小田 武人君

刀根議員。

○議員 5 番 刀根 正幸君

続きまして、これから福祉という形の中です、各地区のほうにおりていこうというところで、先ほど説明がありました 8 自治区とか、そういうところもございますので、何と言いますか。福祉の何とか、それをお願いしたいと思います。

○議長 小田 武人君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

サロンもございますけど、先ほど議員御指摘がございました老人クラブの活動というのがまず第一であるかなと思います。老人クラブの活動の活性化という面では、私ども実施計画にも計上しておりまして、活動を支援しております。おかげさまで 29 年度、1 老人クラブができる予定というような、新しくですね、単位老人クラブがまたできるような予定ということで、御支援、私たちの力じゃないんですけども、高齢の方が一生懸命されているので、そういうことが進んでおります。

それから議員御指摘の地域交流サロン事業ですね、これは福祉課の方でやっているんですけども、2 年間のモデル事業を経まして、29 年度から正式に各地域で事業として推進していただいでいくわけでございますが、18 自治区です、実施される予定でございます。

また、事業の趣旨につきましては、それぞれの地域におきまして、高齢者などの気になる方の見守り、介護予防などを目的としておりますが、これまでのモデル事業では、各自治区からさまざまな効果が報告されているところでございます。

さて、地域交流サロンモデル事業につきましては、運営のルールとして、自治区の加入・非加入を問わず、希望される高齢者などが参加できるサロンとしています。このルールを定めた理由の一つは、地域コミュニティの活性化のため、自治区に加入されていない方には加入促進、また、自治区を離れる傾向のある高齢者がいつまでも自治区に加入していただきたいとの考えからでございます。これを引き続き、モデル事業はとった正式な事業でも同じ考えでやっています。また、現在 13 自治区です、行われております自治区の体操教室、公民館の体操教室なんですけど

平成 29 年第 1 回定例会（刀根正幸議員一般質問）

も、介護予防のためやっているんですけど、これも同様の考え方を持っております。

それから、27年度から取り組みを始めました地域への避難行動要支援者名簿の配付も地域コミュニティの活性化の一助にもできるよう、新たな要支援者への自治区加入というかですね、対象者には自治区に加入してくださいよというような勧奨も進めております。

私どもとしましては、地域交流サロンを含めた各種事業の実施につきましては、常に地域コミュニティとの関係性を念頭に事務を進めております。地域におかれましても、町などの各種事業とかですね、こういったものをコミュニティの活性化のために利用していただきたいというふう考えております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

刀根議員。

○議員 5番 刀根 正幸君

続きまして各地区のですね、学習活動と言いますかね、そういったところで社会教育、生涯学習というものもですね、大きな影響を与えていくと思いますので、現状報告をですね、お願いしたいと思います。

○議長 小田 武人君

生涯学習課長。

○生涯学習課長 本石 美香君

それでは、生涯学習課が所管いたします地域コミュニティ育成及びコミュニティーを担う社会教育団体、こちらの育成への取り組みについてお答えいたします。

各地区における住民の融和を図る自治区公民館活動を支援するために、現在、芦屋町地区公民館関係補助金交付要綱に基づきまして、公民館の管理運営や公民館活動に関する事業経費を対象とした地区公民館活動費補助金を各自治区公民館に支給しています。また、自治区の公民館長さんに対しまして、必要に応じて、公民館実践活動に関する情報提供や公民館事業に関する各種研修への参加を促しております。

また、社会教育団体の育成への取り組みにつきましては、例えば、芦屋町子ども会育成会連合会に対して、運営費補助金のほか、新旧子ども会役員を対象とした情報交換会や役員のほか、各区で子供にかかわる方々を対象とした指導者研修会の実施に当たりまして、企画・実施支援を行っております。先ほど議員さんの御指摘にありました芦屋町婦人会、こちらに対しましては、運営費補助金の支給のほか、町が実施する各種講座や講演会への参加を促すとともに、ボランティア活動センター等において、求めに応じて、活動支援や活動に関する助言を行っております。また、青少年健全育成町民会議及び校区青少年健全育成会議に対して、運営費補助金支給のほか、公民

平成 29 年第 1 回定例会（刀根正幸議員一般質問）

館職員が事務局となりまして、会の運営支援を行うとともに、研修会等事業の企画・実施支援を行っています。

また、今年度から新たに始めた取り組みといたしまして、ボランティア活動センターにおきましてワールドカフェ事業というものがございます。こちらは、カフェのような気軽な雰囲気の中で意見交換を行うもので、今年度はボランティア活動センター登録団体を対象に、「おせっかい」をテーマに4回ほど開催し、地域でのコミュニケーションやボランティアの必要性を考え、また、実践例として、若い人が地域に馴染むために必要なことは何かなど意見交換を行いました。4回目、最終日には高校生や町の若手職員も参加し、地域の方々と積極的に意見を交わしております。

生涯学習の取り組みは、強制するものでも一足飛びに成果があらわれるものではないと考えております。今後もさまざまな手法を模索しながら、取り組みを継続していきたいと思っております。

以上です。

○議長 小田 武人君

刀根議員。

○議員 5番 刀根 正幸君

今お聞きしたところでね、各地区の中にある構成団体のできているところと、できていないところ、例えば子ども会であれば、以前は18団体ぐらいだったか、16団体ぐらいあったところの分で増減。今こういった活動ですね、地域の中でやっているわけですけども、そんなのでふえているか、減っているかのところがちょっと知りたいんですけども。あんまり変わらなければ変わらないというところで結構です。

○議長 小田 武人君

生涯学習課長。

○生涯学習課長 本石 美香君

今現在、数字で持ち合わせているところが子ども会になりますが、平成27年度で10地区313人でした。それが28年度におきましては9地区309人というふうに報告を受けております。

以上です。

○議長 小田 武人君

刀根議員。

○議員 5番 刀根 正幸君

かなり、やはり少なくなっているなという印象を受けたもので。これは後でまたお話をさせていただきますが。

それから地域づくり課のところの部分だったですかね、企画か。企画のところの部分で何かこ

う、一つの活動報告的な部分というのは何かないですか。実際はないですかね。いやいやそれがないならないで別に構わない。というのがですね、私が今いろいろなことをお聞きしています。お聞きしていますけれども、それは実は数ほど、数字ほどいわゆる嘘をつくものはないなというみたいなどころで話をしたいなということなんです。今回も、実は、例えば何かの調査をやりますよ。調査をやりますよといったときに、例えば世帯数だったら世帯数、人口だったら人口といったところですね、報告書としてまとめられている、そのところで数字が動いてくるんですね。何で動いてくるのかといったところで聞いたときに、なかなかその本当のところが見えてこない。というところで、例えば、住民基本台帳で言う世帯数と国勢調査で言う世帯数とか、そういった意味合いです。これ、そういったところの部分で、調べる角度によって、ものは変わってきますから、そのところの部分で、それに惑わされないで、やはり一つの方向、その分をどうまとめ上げていったらいいのかといったところの部分で、少しお話をさせていただきます。

今、何と申しますかね、報告していただいたんですけども、なかなかそこにありつけない、到達できない目標値がそこにあるんだけど、到達できない。それは、私はですね、一つの会議の中で、福祉の関係で言わせていただきますとね、実は、大君地区というのは愛のネットワークというところでやっているんですね。そこで、そのやっている関係者が寄って、その中で出た言葉があるんです。実はショックを受けたんですけどね。それは今の自治区でやっている自治区の活動そのものに魅力がないから、なかなか入ってこないんですよ。だから、もっと、やはり一つの活動に共感できるような、そういったものがあれば、その活動としてパーセンテージが上がりますよといったことを、意見交換会の中で出たことがあるんです。それに対しては、やはり、それぞれの地区の中で、それぞれ一生懸命頑張っているわけで、言われた方については、当然反発してまいります。だから、これを反発しなくても、にこっと笑えるだけの活動体系が取ればいいんですけども、なかなかそのそういったものを出していくというのが難しいんです。今、例えば、子ども会の参加者の部分だって少ないなといったときに、実は、私が約 30 年ぐらい前に、この社会教育で担当をしていた時期があります。その時にはですね、小さな少ない区の中でもですね、大体出てきよったから、30 区のうち 28 区ぐらいはあったんじゃないですかね。そのところで情報交換会なりしながらですね、当時、町の中を探して歩くウォークラリーっていうのかな、そういったところをやったときに、ドンと来て 500 人ぐらいの。そして町内の方からですね、寄附というんですかね、いただきながら、それを経費としながら、予算的には幾分か持っていますけれども、ほとんどがそれに、活動に協力していただけるといった形の中でにぎわっていたもんです。ところが、だんだん、だんだん各地区の中で子ども会そのものが、子供が少なくなってきた。そしてそれが、勢いがこう、しぼんだときに、当時、各地区から、何ていうんですかね、指導者養成講座というのかな、そういったところの部分でやっていた部分が、今はもう全体でど

なたでも五、六年という格好で、キッズというものに切りかわっていった。その辺のところの差とかがですね、やはり事業をやっていくときに、何を到達点として目指していくかっていうのが大事ななと思いましたので、まずはその辺のところさせていただきました。

次にですね、今回、一応、この中で、じゃあ活力ある地域に持っていきましょうよといったところで、自治区担当職員制度という格好で、今、取り入れています。ところがその町、参考になった、行ったところの部分というのがですね、実は、自治区加入率というものが 90 から 95 というところで、既に高いんです。芦屋町の場合は、今、ここで聞きましたように、このような活動をやっているんだけど 59%と落ちていっている。そうすると、その中でやはり一つの目標到達率、どこまで持っていきかっていうのを後で聞くわけですけども、そうするとそれをやったときに苦労だけが残ったら、これは疲れるんですよ。職員も疲れます。だけど、一つの目標に対して達成していく、そういうふうな形になったときにですね、今度はそれが満足感になり、いいほうに回っていくんです。だから、せっかく頑張っているそのところの分をですね、いいほうに持っていかなくちゃなりません。

これがせんだって私たちが研修を受けたところですね、北九州市の末吉さんっていう方が市長されていました。その方のあるページの語録の中に、みこしは足し算、知恵は掛け算という言葉がありました。この言葉、素晴らしいなと思ったんですけど。実は力仕事をするときにはですね、人は多い方がいいんだという考え方なんです。そして、みんなで頑張っていくことが大事だけど、いろいろな知恵を出し合って、何かをやるかといったときにはですね、いろいろな考え方の違う人が集まって、そしてそこでけんけんがくがくと意見をやりやったほうが、より知恵が出やすいですよ。今回、このところですね、自治区の担当制度、これは知恵の出し合いだと思っています。これに成功することによって、これからの地方創生事業というものがですね、ぐっと変わってくるかなと思っていますので、ぜひ頑張ってくださいたいわけですが。

そこで問題の 2、自治区担当職員制度のステップ 2 を 8 自治区において行ったといった御報告があっていますが、その高齢化率の高い自治区と低い自治区において、どのような違いがあったかということを検証していきたいと思います。問題、課題について、その内容がある程度出ればですね、それを参考に質問させていただきたいんですが。

**○議長 小田 武人君**

地域づくり課長。

**○地域づくり課長 入江 真二君**

今年度、ステップ 2 に取り組んでいる自治区は 8 自治区でございます。会議の回数も 1 回から 3 回と取り組みの回数に差がございます。現在までの会議報告を見ますと、高齢化率の高い自治区においては、高齢のため、区の役員を引き受けることができずに区を脱退するという一方で、

平成 29 年第 1 回定例会（刀根正幸議員一般質問）

加入率の低下及び担い手不足の課題がございます。また、高齢化率の低い自治区においては、若い世代が共働き等で働き盛りであることから、区の活動に参加できないということで区に加入しない世帯が多く、それぞれ要因は異なっておりますけれども、どちらも担い手不足の課題というものは共通しております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

刀根議員。

○議員 5 番 刀根 正幸君

今、報告していただきまして、いわゆるそれぞれに若いなら若いなりに、また、高齢者が多ければ多いなりに課題があるんだといったところが見えてまいりました。そうした場合に、私は午前中に松岡議員がおっしゃった、やはり、リーダー養成事業といったところの分をですね、やはり、これはある意味ですね、地域づくり課のみではなくて、それぞれのところで、例えば社会教育、生涯学習課ですね、そして地域づくり、それから私は企画も入って構わないと思っております。そういった一つの、この町ではこういうふうな問題、課題がありますというのは、さまざまな問題を一緒になって考えていく必要があるかなというふうに思っております。できましたらですね、今、やはり行政機構といったところの部分ではですね、縦割り型組織、これはどうしてもゆがめないところはあるわけですが、こういった一つのものをつくっていかうと、新しい、そういったものを考えていかうといったときの中ではですね、ある程度、風通しがよくなるというんですか、横断的なところを考えていかないと、なかなかそのところでですね、絡ませたってうまく回らないんじゃないかなというふうに考えておりますので、ぜひとも、そういった組織づくりといったところの分も含めてですね、検討していただければなというふうに考えております。

次に、自治区加入率の高い自治体と低い自治体では、住民に対する指導や対応が異なっていると考えますが、やはり住民の共感を得た中で、どのような方向性を持って進めていくのか。その現行で歯どめができるか、今の現行の中でですね、歯どめができるかについてお尋ねいたします。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

この自治区加入率の高い自治体と低い自治体ということで、刀根議員さんは、従来から防府市や広川町の例を挙げられて、自治区に加入しない方に対するデメリットというか、そういったものがないと加入率は上がらないんじゃないかとおっしゃっていらっしゃいます。町としては、自治区加入はあくまで任意であることから、ペナルティー的措置はなかなか難しいのではないかとこのように考えております。

平成 29 年第 1 回定例会（刀根正幸議員一般質問）

防府市や広川町では、それぞれの地域の歴史や文化が芦屋町とは異なるため、そういった措置が、芦屋町の場合は、住民の方の共感が得られるということは難しいのではないかとこのように考えております。松岡議員さんのときにも回答しておりますけど、自治区が抱える課題はやっぱり、自治区それぞれございますので、それぞれの区のニーズにあった活動や行事等を実施することが有効であるというふうに考えております。町としては、自治区活性化の支援として、財政的支援、自治区活性化交付金の交付並びに人的支援である自治区担当職員制度の取り組みを強力に推進することで、今後も自治区活性化の支援に取り組みたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

刀根議員。

○議員 5 番 刀根 正幸君

今のところで、ペナルティーというところの部分とかですね、今回も言ってない、前も言ってないんですけど。実はこれ、そこそこの地域の実情というところの分があるんですね。

例えば、私たち沢内村というところの中で、行ったときに、逆に担当者が驚いていました。そんなに低いんですかって。私たちの村、当時、町やったかな。沢内町って言ってたかな、村って言ってたかな。ではですね、もう年をとった方もいわゆるその活動には参加しないけれども、この自治区には加入していますと。加入しないとそれは命の問題になるんですよって。というのはやはり、東北ということで、雪深い。そうすると雪が迫ってくる。その雪がたまってくることによって買い物に出ることができない。玄関がね。だから当然、雪おろしをしなくちゃいけない。これは単に、そういった沢内村だけではなくて、そういった箇所は全部そうなんです。ですから鳥取もそうですよ。先ほど、こういうふうな人が入ってきましたよ。人口増加になりましたよ。あそこも雪深いんですよ。ですから自治区加入率が非常に高いです。

だけど、広川町の場合はですね、今度は、たまたま職員自治区担当制度というところの部分で、区長会で行ったんですけどね。そこのときにやはり何区かね、そういった何というか、対応していく中で、苦情の電話があるんです。苦情の電話があったときに、これは当時、担当されている方が企画課長でした。はっきりおっしゃいました。それはあなたに問題があるんですよって。だからあなたが自治区に入れば何も問題ないでしょうということで、むしろその方を指導していますと、そういう言い方でしたね。ですからアパートとかそういった集団的に入っているところの部分でも、お宅の場合は、一応、自治会のところで了解をとって半額にしておきますと。というのが、いわゆる共益費とか、そういったものが発生するから、同じようなわけにはいかんでしょうから、区費を半額にしておきますと、それでよろしいですよと言ったら、全部入ってくるという言い方でした。

やはり、私はある意味、行政の一つのビジョン、それと行政からの指導、そして民間というんですか、ある意味、任意団体といったところに対する指導そのものをきちっとすることによって、本来的に入るんじゃないかなと。ところが、これも私の言う、うがった考え方ですけども、周りが入っていなければ、自治区に加入しようとしても、入らないことに抵抗感を感じないじゃないかな。むしろ、みんなでその抵抗感をないものですね、きちんとしていくためには、ある意味、活動とかビジョンとかそういったものを示しながら、それに対して共感を呼んで、そして、その上で活動していくその中で、これやっぱり入らないかんね。まして一つの、何ていいますか、災害等があれば、これはいや応なしに、その一つの共同という作業が出てくるわけですよ。だけど、そういったものが出てからでは遅いですよというのが、実は災害なので、その前にみんなでその辺、助け合えるようなものをつくっていく。それが必要じゃないかなというふうに考えております。

先ほど、任意団体とかそういったところの分じゃなくて、今後の目標になる、そういった考えなしに共感というものは、私は得るのは難しいと思っています。だから、今、このところ、今後どういった将来像を描いていくのか。すぐにこれをつくってくれというわけではありません。基本的に一年かかろうと構わないんです。それをきちっとその中でやれるような体制が取れたときに、初めてきちっと流していく。これは情報の提供、そういったものも全てそうです。やはり、一どきにやるんじゃなくて、きちっと周り、外堀が埋まって、その上に立ってですね、適切な情報提供とか、そういったものを私はつくっていく必要があるかなというふうに思っております。

これはもう答えていただく必要はないです。ないんですけども、そういった一つの町に対する青写真、これ前回にも言ったんですが、最初からこれをするとできないとかそういった発想の中では必ず生まれません。例えて言いますとね、豊臣秀吉、木下藤吉郎ですね、あれが織田信長からですね、あそこまで寵愛されたというのは、他の武将ではできないことを率先してやったということなんです。そして、そのやり方・手段については、きちんとその辺のところですね、周りの働いている人が納得するような対応を見せたんです。だから、一生懸命その分も、3日間でその城をつくり上げていきましょうというものができたと思います。反発だけじゃなくって、やはりそこに共感というんですかね、そういったものが私は大事だなというふうに思います。今回は全く、この一般質問の中でかぶりましたけれども、ちょっと今、違った視点の中で話をさせていただきましたが、これは本当に重要な内容だと考えております。ですから、今後ともですね、これからの芦屋町、これからの芦屋町に、例えばきょう、生涯学習の課長がおっしゃいましたけれども、ワールドカフェというかな、あのところでやっぱり若い人をここに持ってくるにはどうしたらいいか。全く違った人がですね、この次のテーマ、さらにそれを深めていきますよということで、興味を持って私も参加させていただこうと思っておりますけれども、そういうことで、今

平成 29 年第 1 回定例会（刀根正幸議員一般質問）

回重複したことをお詫びしながら、終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長 小田 武人君

以上で、刀根議員の一般質問は終わりました。